

2026年3月26日

各位

会社名 株式会社フリースタイル  
(コード番号 528A TOKYO PRO Market)  
代表者名 代表取締役 青野 豪淑  
問合せ先 管理本部長 土屋 昌司  
TEL 052-222-3200  
URL <https://freestyles.jp/>

**東京証券取引所 TOKYO PRO Market への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ**

当社は、本日、2026年3月26日に株式会社東京証券取引所 TOKYO PRO Market に上場いたしました。今後とも、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2026年3月期(2025年4月1日から2026年3月31日まで)における当社の業績予想は次のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【非連結】

(単位:百万円、%)

項目	決算期	2026年3月期(予想)		2025年3月期(実績)		
		構成比	対前年増減率		構成比	
売上高		1,877	100.0	7.4	1,747	100.0
営業利益 又は営業損失(△)		△ 119	△ 6.3	△ 318.6	54	3.1
経常利益 又は経常損失(△)		△ 117	△ 6.2	△ 309.8	56	3.2
当期純利益 又は当期純損失(△)		△ 117	△ 6.2	△ 417.4	37	2.1
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純損失(△)		△ 117.72		37.09		
1株当たり配当金		—		—		

(注) 当社は、2025年6月27日開催の株主総会決議により、2025年6月27日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。2025年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

## 【2026年3月期業績予想の前提条件】

### 1. 当社全体の見通し

国内経済は、賃金上昇や設備投資の回復により一定の持ち直しの動きがみられる一方で、物価高や海外金利の動向、地政学的リスクなど先行き不透明な要因も残されております。

IT（SES）業界は、深刻なIT人材不足により有効求人倍率が高水準（2.84倍）で推移しており、引き続き高い需要が見込まれております。

当社においても、既存顧客からの継続的な案件受注に加え、新規顧客の開拓および新規開発への取り組みを通じて成長機会を拡大しており、持続的成長を目指しております。

### 2. 業績予想の前提条件

#### （1）売上高

売上高は、現在の受注・継続案件および過去実績を踏まえて算定し、予算化しております。システム開発案件に加え、新規顧客案件等の獲得を見込んでおります。

以上の結果、売上高は1,877百万円（前期比7.4%増）を見込んでおります。

#### （2）売上原価、売上総利益

売上原価は、過去実績を基に、2025年10月にリリースした「オバケイドロ2」に伴うソフトウェアの減価償却費増加および社員の採用等を考慮して算定しております。主な構成要素は人件費であり、当期は新規採用を継続するため一定の増加を見込んでおります。

以上の結果、売上原価は1,511百万円（前期比13.1%増）、売上総利益は366百万円（前期比2.6%増）を見込んでおります。

#### （3）販売費及び一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費は、過去実績を基に発生見込みを算定しており、採用関連費用および上場関連費用を計上しております。

以上の結果、営業損失は119百万円（前期比318.6%減）を見込んでおります。

#### （4）営業外損益、経常利益

営業外損益は、支払利息等を考慮して算定しております。

以上の結果、経常損失は117百万円（前期比309.8%減）を見込んでおります。なお、2027年3月期においては業績の回復を見込み、前期並みの利益水準への改善を見込んでおります。

#### （5）当期純利益

法人税等を考慮した結果、当期純損失は117百万円（前期比417.4%減）を見込んでおります。

## 【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報および合理的であると判断した一定の前提に基づくものであります。実際の業績は、経済環境の変動、投資動向の変化、採用状況、ならびに競合環境等の様々な要因により、予想数値と大きく異なる可能性があります。

2026年3月期 第2四半期（中間）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年3月26日

上場会社名 株式会社フリースタイル 上場取引所 東  
 コード番号 URL https://freestyles.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)青野 豪淑  
 問合せ先責任者 (役職名)管理本部長 (氏名)土屋 昌司 (TEL) (052)222-3200  
 定時株主総会開催予定日 2026年6月25日 配当支払開始予定日 -  
 発行者情報提出予定日 2026年6月30日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期中間期の業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

(1) 経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	878	-	6	-	10	-	7	-
2025年3月期中間期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益	
	円	銭	円	銭
2026年3月期中間期	-	7.10	-	-
2025年3月期中間期	-	-	-	-

(注) 1. 当社は2025年6月27日に普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。上記では、2025年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

2. 2025年3月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円	百万円	円	%	円	銭	
2026年3月期中間期	802	-	284	-	35.5	284.84	-	
2025年3月期	813	-	276	-	34.0	276.64	-	

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 284百万円

(注) 当社は2025年6月27日に普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。上記では、2025年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金			(合計)	配当性向	配当率	
	中間	期末	合計				
	円	銭	円	銭	百万円	%	%
2024年3月期	-	-	-	-	-	-	-
2025年3月期	-	-	-	-	-	-	-
2026年3月期(予想)	-	-	-	-	-	-	-

3. 2026年3月期の業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	1,877	7.4	△119	△318.6	△117	△309.8	△117	△417.4	△117.72	-

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- |                      |   |
|----------------------|---|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更        | 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更         | 無 |
| ④ 修正再表示              | 無 |

(2) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期中間期	1,000,000株	2025年3月期	1,000,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	—	2025年3月期	—
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年3月期中間期	1,000,000株	2025年3月期中間期	1,000,000株

(注) 当社は2025年6月27日に普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。上記では、2025年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる場合があります。

## ○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローに関する説明	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(セグメント情報等)	8
(1株当たり情報)	9
(重要な後発事象)	10

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の回復に加え、建設投資やデジタル関連設備投資の拡大を背景に、緩やかながらも持ち直しの動きが続いております。一方で、円安の進行による輸入物価の上昇、原材料・物流コストの高止まり、米国の関税政策や地政学的リスク（ロシアによるウクライナ侵攻の長期化など）を要因とした先行き不透明感も依然として残っており、企業収益や消費者マインドへの影響が懸念される状況です。

当社の主力事業であるITソリューション事業が属する情報サービス業界は、2025年上半期においても堅調な成長を維持いたしました。生成AIの進化と業務活用の拡大、クラウドネイティブ技術の普及、ゼロトラスト型セキュリティの導入、そしてノーコード・ローコード開発の拡大など、技術革新が企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）を加速させております。特に、Windows10のサポート終了に伴うシステム刷新需要や、インボイス制度・電子帳簿保存法対応を契機とした中堅・中小企業のIT導入が進んでおり、IT人材の確保・育成は企業競争力の根幹を成す課題となっております。こうした環境のもと、当社の事業機会も着実に拡大しております。

中間会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）では、事業の拡大によるITソリューション事業における人件費の増加、ゲーム事業における新規タイトルの開発に伴う外注費の増加がありました。

その結果、当中間会計期間の売上高878,304千円、営業利益6,993千円、経常利益10,422千円、中間純利益7,104千円となりました。

なお、当中間会計期間は中間財務諸表の作成初年度であるため、前年同期との比較分析は行っておりません。

セグメント別の業績の概要は次のとおりです。

#### 〈ITソリューション事業〉

堅調なIT人材の需要を背景に業界環境は引き続き好調に推移いたしました。当社では、特に広告媒体を活用した積極的な採用活動や、ITスキル習得を支援する社内研修・資格取得奨励制度の整備、顧客先常駐社員との定期的な1 on 1面談やメンタルケアの導入を通じて、離職率の低下等を主要KPIとして取り組んでおります。

これらの結果、売上高は706,182千円、セグメント利益は147,719千円となりました。

#### 〈ゲーム事業〉

当中間会計期間においては、自社IPタイトルである「オバケイドロ！」の運用改善・プロモーション活動を強化し、一定の収益基盤を維持いたしました。また、前事業年度からの取り組みとして他社IPであるスマートフォンゲーム「18TRIP」の受託開発を実施し、当社のゲーム開発・運営ノウハウを活かして開発実績を積み重ねました。さらに、新規タイトル開発に備え採用活動を積極的に行い、エンジニアやデザイナーの人材を増員することで、今後の事業拡大に向けた基盤整備を進めました。

これらの結果、売上高は167,087千円、セグメント利益は45,137千円となりました。

#### 〈その他事業〉

その他の事業では、新規サービスに関する市場調査から開発、営業、販売までを担う「システム開発事業」、及び非IT業種への人材派遣を行う「派遣事業」を展開いたしました。

これらの結果、売上高は5,033千円、セグメント損失は13,858千円となりました。

## (2) 当中間期の財政状態の概況

### (流動資産)

当事業年度末における流動資産の残高は422,729千円で、前事業年度末に比べ196,251千円減少しております。主な減少要因は現金及び預金の減少220,760千円等であります。

### (固定資産)

当事業年度末における固定資産の残高は379,842千円で、前事業年度末に比べ185,071千円増加しております。主な増加要因はソフトウェア仮勘定の増加169,232千円であります。

### (流動負債)

当事業年度末における流動負債の残高は316,074千円で、前事業年度末に比べ16,115千円増加しております。主な増加要因は買掛金の増加27,161千円、未払消費税の減少17,662千円であります。

### (固定負債)

当事業年度末における固定負債の残高は201,654千円で、前事業年度末に比べ35,495千円減少しております。社債の減少15,000千円と長期借入金の減少21,276千円がその変動要因であります。

### (純資産)

当事業年度末における純資産の残高は284,841千円で、前事業年度末に比べ8,200千円増加しております。中間純利益7,104千円の計上が変動要因であります。

## (3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況

当中間会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」といいます。）の期末残高は183,632千円となりました。各キャッシュ・フローの状況と主な要因は以下のとおりです。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、支出した資金は27,971千円となりました。これは主として、ITソリューション事業の売上規模拡大に伴う売上債権の増加額19,555千円と仕入債務の増加6,169千円、賞与引当金の増加3,735千円、未払消費税等の減少17,662千円、法人税等の支払額5,204千円によるものです。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、161,446千円となりました。これは主として、無形固定資産取得による支出150,405千円によるものです。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、31,278千円となりました。これは、社債の償還による支出15,000千円、長期借入金の返済による支出16,278千円によるものです。

## (4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

「1. 経営成績等の概況 (1) 当期の経営成績の概況」に上述したとおり、当社が属するIT業界では各分野での急速な成長を続け、IT人材の需要が高まると思われます。

以上により、2026年3月期業績につきましては、売上高は1,877,482千円（前期比7.4%増）、営業損失は119,030千円（前期比318.6%減）、経常損失は117,715千円（前期比309.8%減）、当期純損失は117,715千円（前期比417.4%減）になるものと予想しております。

## 2. 中間財務諸表及び主な注記

### (1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当中間会計期間 (2025年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	404,393	183,632
売掛金	189,164	208,719
商品	411	1,361
前払費用	21,858	24,778
未収入金	198	175
その他	6,104	7,162
貸倒引当金	△3,150	△3,100
流動資産合計	618,980	422,729
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	36,272	37,497
車両運搬具（純額）	0	—
工具、器具及び備品（純額）	6,019	11,798
土地	26,764	26,764
有形固定資産合計	69,057	76,060
無形固定資産		
ソフトウェア	549	3,825
ソフトウェア仮勘定	25,819	195,051
無形固定資産合計	26,368	198,876
投資その他の資産		
投資有価証券	13,198	14,848
出資金	10	10
長期貸付金	16,792	15,242
長期前払費用	2,611	2,129
保険積立金	46,923	48,253
繰延税金資産	14,853	14,521
その他	21,747	25,142
貸倒引当金	△16,792	△15,242
投資その他の資産合計	99,344	104,905
固定資産合計	194,770	379,842
資産合計	813,750	802,571

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当中間会計期間 (2025年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	62,512	89,674
1年内償還予定の社債	30,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	37,554	42,552
未払金	97,284	97,287
未払費用	14,810	13,456
未払法人税等	5,110	4,375
未払消費税等	35,713	18,050
預り金	710	687
賞与引当金	15,983	19,718
その他	278	271
流動負債合計	299,959	316,074
固定負債		
社債	60,000	45,000
長期借入金	171,929	150,653
資産除去債務	5,221	6,001
固定負債合計	237,150	201,654
負債合計	537,109	517,729
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	264,516	271,621
利益剰余金合計	264,516	271,621
株主資本合計	274,516	281,621
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,124	3,220
評価・換算差額等合計	2,124	3,220
純資産合計	276,641	284,841
負債純資産合計	813,750	802,571

## (2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	878,304
売上原価	635,721
売上総利益	242,582
販売費及び一般管理費	235,588
営業利益	6,993
営業外収益	
受取利息及び受取配当金	604
受取賃貸料	2,074
貸倒引当金戻入額	1,600
その他	1,268
営業外収益合計	5,547
営業外費用	
支払利息	1,359
社債利息	193
為替差損	64
支払保証料	490
その他	11
営業外費用合計	2,118
経常利益	10,422
特別利益	
固定資産売却益	930
特別利益合計	930
税引前中間純利益	11,352
法人税、住民税及び事業税	4,470
法人税等調整額	△221
法人税等合計	4,248
中間純利益	7,104

## (3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前中間純利益	11,352
減価償却費	4,401
固定資産売却損益(△は益)	△930
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,600
賞与引当金の増減額(△は減少)	3,735
受取利息及び受取配当金	△604
支払利息及び社債利息	1,552
為替差損益(△は益)	64
売上債権の増減額(△は増加)	△19,555
棚卸資産の増減額(△は増加)	△950
仕入債務の増減額(△は減少)	6,169
その他	△25,455
小計	△21,818
利息及び配当金の受取額	583
利息の支払額	△1,531
法人税等の支払額	△5,204
営業活動によるキャッシュ・フロー	△27,971
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△10,228
有形固定資産の売却による収入	930
無形固定資産の取得による支出	△150,405
貸付金の回収による収入	3,050
その他	△4,792
投資活動によるキャッシュ・フロー	△161,446
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入金の返済による支出	△16,278
社債の償還による支出	△15,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△31,278
現金及び現金同等物に係る換算差額	△64
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△220,760
現金及び現金同等物の期首残高	404,393
現金及び現金同等物の中間期末残高	183,632

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に製品・サービス別の事業本部を置き、各事業本部は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

ITソリューション事業	システム開発ベンダーやSIerなどを顧客とした、SES型の人材提供サービス
ゲーム事業	自社タイトルゲームの開発及び他社のゲーム開発案件受託

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、棚卸資産の評価基準を除き、「重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。

棚卸資産の評価については、収益性の低下に基づく簿価切下げ前の価額で評価しております。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

当中間会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	調整額 (注2)	中間損益計 算書計上額
	ITソリューション事業	ゲーム事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	706,182	167,087	873,270	5,033	—	878,304
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	706,182	167,087	873,270	5,033	—	878,304
セグメント利益又は損失 (△)	147,719	45,137	192,857	△13,858	△172,005	6,993
その他の項目						
減価償却費	315	2,634	2,949	385	1,065	4,401
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	—	175,980	175,980	4,406	5,424	185,811

(注1) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、セグメント利益又は損失は中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(注2) 調整額は、各セグメントに分配していない全社費用になります。

(注3) セグメント資産を事業セグメントごとに管理していないため、セグメント資産の金額は記載しておりません。ただし、配分されていない償却資産の減価償却費は、合理的な配賦基準で各事業セグメントに配賦しております。

(1株当たり情報)

	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
1株当たり中間純資産額	284.84円
1株当たり中間純利益金額	7.10円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、新株予約権の残高はありますが、当社株式は非上場であるため期中平均株価を把握できませんので記載しておりません。

2. 当社は2025年6月27日付けで普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産及び1株当たり中間純利益を算定しております。

3. 1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
1株当たり中間純利益金額	
(算定上の基礎)	
中間純利益(千円)	7,104
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式に係る中間純利益(千円)	7,104
普通株式の期中平均株式数(株)	1,000,000
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	新株予約権1種類(新株予約権の数250個(普通株式25,000株))

(重要な後発事象)

当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至2025年9月30日)

(資金の借入)

当社は、財務体質の強化及び運転資金の確保を目的として、2025年9月19日開催の取締役会及び2025年12月19日開催の取締役会において、金融機関からの借入及び社債による資金調達を行うことを決議し、当該決議に基づき、以下のとおり資金調達を実行しております。

借入の概要

(1) 借入先	株式会社三井住友銀行
(2) 借入金額	280,000千円
(3) 借入実行日	2025年10月15日
(4) 借入期間	5年～10年
(5) 金利	基準金利＋スプレッド
(6) 担保等の有無	無担保
(7) 財務制限条項	なし

(1) 借入先	株式会社百五銀行
(2) 借入金額	20,000千円
(3) 借入実行日	2026年1月26日
(4) 借入期間	5年
(5) 金利	変動金利 年1.40% (短期プライムレート連動)
(6) 担保等の有無	無担保
(7) 財務制限条項	なし

社債の概要

(1) 引受先	株式会社百五銀行
(2) 発行総額	100,000千円
(3) 発行日	2026年1月26日
(4) 償還期限	5年
(5) 利率	固定 年2.03%
(6) 担保等の有無	無担保
(7) 財務制限条項	なし